

資本性劣後ローン...DDSの活用イメージ

現状の債務者状況

- ・ 債務超過＝100M
- ・ 経常利益＝15M
- ・ 債務超過解消に8年弱
- ・ 証書貸はリスク中



■金融機関における現状評価

- 黒字だが債務超過且つ解消に8年を要する
- 約定返済をストップしている

債務者区分は要管理先…引当率25%→一般貸倒引当金：144M

	金額	金利	担保	保全額
証貸（設備）	300	4.0%	根	200
証貸（設備）	250	4.0%	//	//
手貸（運転）	25	4.5%	預-社長	40

経営効率化による再建の可能性が見込まれ、且つ、年間30Mの約定償還が見込めることから証貸を450M（返済期間15年）と100M（DDS）に、手貸は預金と相殺する。
運転資金に関しては社長の個人預金をベースに都度新規貸出にて対応する。

再建計画の可能性

	初年度	2年目	3年目
売上高	2,000	2,000	2,050
粗利益	250	250	255
販管費	220	220	225
営業利益	30	30	30
支払利息	15	15	15
経常利益	15	15	15
減価償却	20	19	18
償却前利	35	34	33
約弁可能	30	30	30

	金額	金利	担保	保全額	
証貸（設備）	450	3.0%	根	200	
証貸（設備）	100	0.5%	無	0	DDS
手貸（運転）	0	-	預-社長	(15)	

■金融機関における評価…引当コストの軽減も実現可能となる！

- DDSにより債務超過解消
- 450Mの証貸は期間15年で約定返済可能

債務者区分はその他要注意先にランクアップ

…引当率5%→一般貸倒引当金：22.5M（＝450M分）

DDSに関しては（準株式法で貸倒引当金計上）：100M